

I 調査結果の概要

I 調査結果の概要

1 農業経営の部門間比較

(1) 部門別農業所得

全国販売農家1戸当たりの農業所得は、土地利用型の稲作部門経営では248万円で、このうち156万円は稲作からの所得となっており、農業所得全体に占める当該部門所得の割合は63%と、他の部門経営に比べて低くなっている。

労働集約型の野菜及び果樹部門経営では、おおむね230～330万円が当該部門からの所得となっており、農業所得全体に占める割合も64～79%と土地利用型の農家に比べて高くなっている。

畜産では、当該部門からの所得は酪農部門経営で798万円、養豚部門経営で541万円と耕種に比べて高く、農業所得全体に占める割合も92%、79%と、耕種に比べて高くなっている。

(2) 労働時間と収益性

家族農業労働1時間当たり部門農業所得は、農業機械の導入が困難な労働集約型の野菜及び果樹部門経営では、おおむね700円～1,000円となっているのに対し、農機具資本比率が高く労働時間の少ない稲作及び麦類部門経営や、労働時間は多いものの年間を通じた作業を行う畜産では、おおむね1,500円～2,900円となっている。

また、農業固定資本1,000円当たり部門農業所得は、果樹部門経営及び畜産では、動植物や建物の固定資本額が大きくなることから、他の耕種に比べて低くなっている。

第1表 経営部門別の経営概要（全国、農家1戸当たり平均）

農業経営部門	農業経営全体			当該経営部門					
	農業所得	自営農業 労働時間	農業固定 資本額	部門農業 所得	農業経営 全体の農業 所得に占 める割合	家族農業労働 1時間当たり 農業所得	農業固定資本 1,000円当たり 農業所得	自営農業 労働時間	注) 作付・ 飼養規模
	1,000円	時間	1,000円	1,000円	%	円	円	時間	
稲 作	2 478	2 289	6 573	1 559	62.9	2 506	444	656	261 a
麦 類	4 146	2 022	8 034	859	20.7	2 883	356	311	490 a
露 地 野 菜	4 567	4 775	7 349	2 923	64.0	977	875	3 200	168 a
施 設 野 菜	4 780	5 677	8 559	3 297	69.0	855	633	4 264	4 432 m ²
果 樹	2 937	4 251	12 377	2 310	78.7	706	210	3 678	160 a
酪 農	8 659	6 085	31 819	7 979	92.1	1 498	258	5 704	40 頭
肥育牛(肉専用種)	8 953	3 802	54 372	6 884	76.9	2 818	134	2 585	82 頭
肥育牛(乳用種)	6 138	3 890	48 528	4 718	76.9	1 603	103	3 026	122 頭
養 豚	6 873	4 808	38 306	5 409	78.7	1 522	152	3 910	770 頭

注) 各部門経営の作付・飼養規模は、稲作、麦類、露地野菜及び施設野菜部門については作付面積、果樹部門については植栽面積、酪農部門については搾乳牛頭数、肥育牛及び養豚部門については飼養頭数である。

図1 主な部門経営の農業所得の比較
(全国、農家1戸当たり平均)

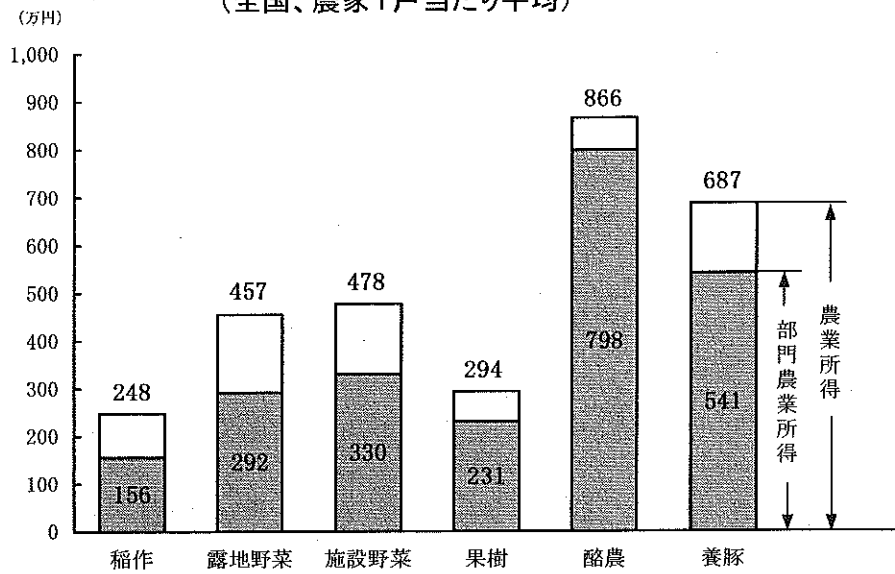
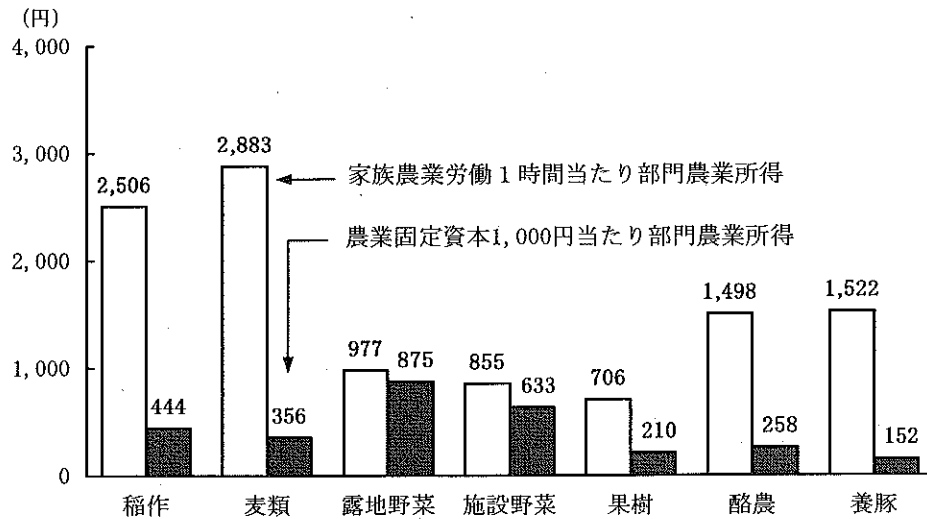


図2 主な部門経営の部門農業所得による収益性の比較



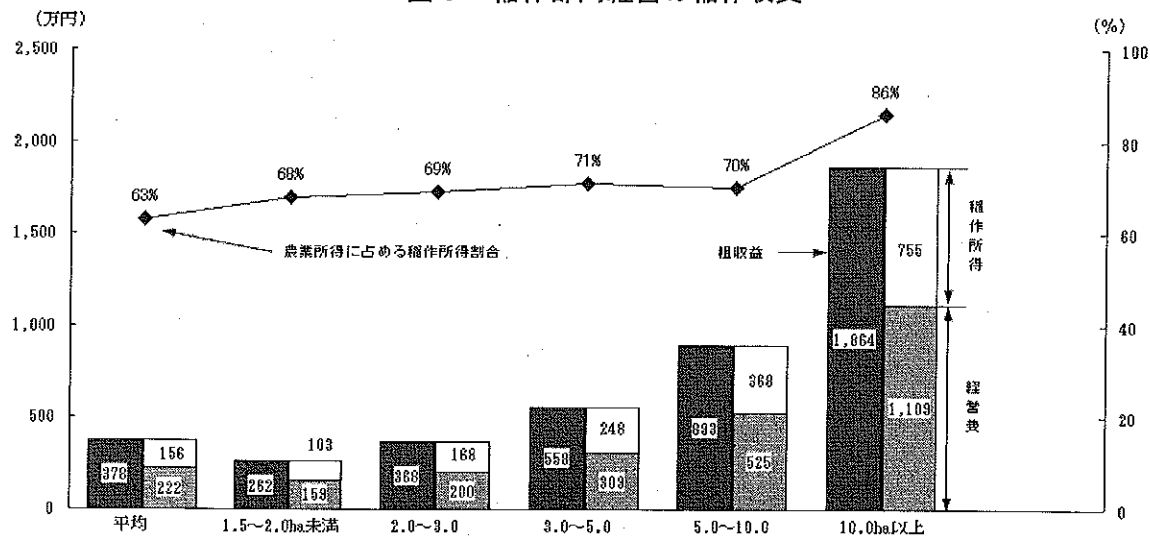
2 主な部門経営の概要

(1) 稲作部門経営

稲作所得を作付面積規模別にみると、2.0～3.0ha以上の各階層において平均の156万円を上回っており、10.0ha以上階層では755万円となっている。

また、農業所得全体に占める稲作所得の割合を作付面積規模別にみると、1.5～2.0ha階層から5.0～10.0haまでの各階層では約70%であるのに対し、10.0ha以上は86%となっており、稲作に特化する傾向がみられる。

図3 稲作部門経営の稲作収支



(2) 酪農部門経営

酪農所得を搾乳牛飼養頭数規模別にみると、30～50頭以上の各階層において平均の798万円を上回っており、100頭以上階層では2,139万円となっている。

また、農業所得全体に占める酪農所得の割合を搾乳牛飼養頭数規模別にみると、10～20頭階層は84%であるのに対し、30～50頭以上の各階層は、95%程度となっており、ほとんどの農家が単一経営となっている。

図4 酪農部門経営の酪農収支

